

生活科学習指導案

1年2組 27名 指導者 松村千賀

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 子どもたちが、活動の見通しをもち、自分の思いや願いを実現するために、主体的に活動することができたか。
- 場の設定や学習道具など学習環境の充実を図り、体験活動が十分なものになったか。

1 単 元 なつとあそぼう

2 目 標

校庭や公園で友達と仲良く遊んだり、動植物、水、土、砂などで工夫して遊んだりして、遊びの面白さや自然の不思議さや季節の変化、身近な人とのかかわりに気付くとともに、期待と関心をもって初めての夏休みを迎えようとする。

3 単元の評価規準

- 身近にある物を使うなどして、遊び道具を工夫し、みんなで遊びを楽しもうとしている。
【生活への関心・意欲・態度】
- 身近な公園を探検したり季節の遊びを楽しんだりすることを通して、季節や生活の様子の変化に気付き、それを素直に表現している。
【活動や体験についての思考・表現】
- 期待と関心をもって夏休みを迎え、楽しかった夏休みを振り返ることを通して、季節の変化や身近な人とのかかわりに気付いている。
【身近な環境や自分についての気付き】

4 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、学習指導要領の内容(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて設定している。さらに、内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わること」に気付き、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」とも関連させて、子どもたちに遊びを作り出す楽しさや友達とのかかわりをもって遊ぶことの楽しさを味わわせることができる単元である。

現在、映像やゲームなどの仮想体験が増え、子どもたちが自然やたくさんの人とかかわり合うことが少なくなっている。だからこそ、人とかかわりながら積極的に自然に触れたり、自然の中で遊んだりすることを通して、自然を利用した体験が必要であると考ええる。

水や土や砂などは、自然を生かした夏の遊びをしたり、身近にある物を使って簡単な遊び道具を作ったりすることを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことができると考える。さらに、自分が興味ある遊びを試したり、作り直したりして作る活動を繰り返すことで疑問を解決していき、遊ぶ楽しさやきまりの大切さに気付くこともできると考える。そして、友達と一緒に遊ぶために遊び方を工夫したり、約束やルールを作ったりして、友達とかかわりを深めたり広げたりすることができる単元であると考ええる。

(2) 子どもの実態と指導

本単元における子どもたちの実態を、日常の観察から、次のようにとらえた。

① 生活への関心・意欲・態度

本学級の子どもは、休み時間、遊具やボールを使った遊びや砂遊びを好んで行っている。身近にある物を使って工作を楽しむ子どもが数名いるが、それらを使ってみんなで遊びを広げていこうとする姿はまだ見られない。

② 活動や体験についての思考・表現

本学級の子どもは、毎朝、あさがおの水掛けを行っている。水掛けが終わると、誰誘うことなく外水道の蛇口やホース、ペットボトルじょうろで水遊びを始めようとしている姿が見られる。また、日々の生活の中で、ルールを守って遊ぶことの大切さを学び、友達と一緒に遊ぶことの楽しさやうれしさを感じてきている。しかし、ルールが守れないためにトラブルになったり、いつも決まった友達としか遊ばなかったりするなど、友達と上手くかかわれない子どももいる。自分たちで遊びを考えたり、身近な物で遊び道具を作ったりする経験は乏しいといえる。

③ 身近な環境や自分についての気付き

本学級の子どもは、生活科の学習に意欲的に取り組み、学校探検やアサガオの栽培などの活動を通して、自然とかかわってきている。休み時間には、田上の森で生き物を見る姿も見られる。

5 指導計画 (総時間11時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
みつける であう	<p>1 校内の生き物の様子を観察し、季節を感じる。 【思：諸感覚を使って、夏の草花や虫を観察したり、工夫して遊んだりしている。】</p> <p>学習カードの記述を紹介したり、子どものつぶやきなどを拾い上げたりして、個々の活動をさらに価値付け、次時への活動に向けての思いや願いを高めさせるようにする。</p> 	2
かかわる	<p>2 夏の遊びを楽しむ。 【気：砂・土・水などを利用して遊ぶ楽しさや自然の不思議さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。】</p> <p>学習環境の充実を図り、体験活動を充実させるとともに、安全面に気を付けながら活動させるようにする。また、学習カードに書いたことをもとに、楽しかったことを紹介し合い、友達や教師と満足感を共有するようにする。</p> 	4 (本時)
	<p>3 公園へ行き、みんなで遊ぶ。 【気：春の公園の様子と比較し、季節の変化に気付くことができる。】</p> <p>子どもの思いを生かし、多様な活動が展開できるようにするとともに、安全を確保するために、学校職員や学校支援ボランティアの方の協力をもらうようにする。</p> 	4
つなげる つたえあう	<p>4 夏のくらしに気付いたことや夏休みにやってみたいことについて話し合う。 【関：初めての夏休みの生活に関心をもち、夏休みへの期待や自分の思いを意欲的に話そうとしている。】</p> <p>学級活動「夏休みの過ごし方」とも関連付けながら、夏休みの計画を立て、初めての夏休みが充実したものになるよう言葉掛けをする。</p> 	1

6 本 時 (4 / 11)

(1) 目標
自分なりに作りたいイメージをもったり、道具を選んだりして、シャボン玉作りを楽しんでいる。

(2) 評価規準と評価の視点
自分なりに使う道具を考え、繰り返し試しながらシャボン玉を作ることを楽しんでいる。
【活動や体験についての思考・表現】

〈評価の視点〉

- ハンガーを使ったら大きいシャボン玉ができたよ。
- ストローじゃなくてもシャボン玉は作れるんだな。 ○ 風に飛ばされて高く飛んだよ。
- 虹色のきれいなシャボン玉ができたよ。
- どの道具を使ってもまん丸のシャボン玉になったよ。
- ○○さんとシャボン玉がくっついておもしろかったね。

(3) 指導に当たって
シャボン玉遊びは、子どもたちの好きな遊びの一つである。道具やシャボン玉液を工夫できることや、友だちと遊びを楽しんだりできること、そして、風や光を感じながら遊んだり、シャボン玉が膨らんだり飛んだりする様子など自分の感じたことや気付いたことを表現したりできることなどから、シャボン玉遊びを設定することとした。

「であう」「みつける」活動では、前時の活動を振り返ることで、願いを引き出し、思いを受け止めるようにする。また、教師が工夫して作った道具を用い、シャボン玉を作りたいという思いや自分の作りたいシャボン玉のイメージを膨らませるようにする。

「かかわる」活動では、遊びを充実させたり、気付きを広げ、深めさせるような活動や言葉掛けを行うようにする。シャボン玉を作る活動の前には、道具や道具の使い方の確認をしながら、どんな道具を使ってみたいか投げかけるようにする。そして、どのような道具を使うといいかを友だちにも考えさせ、友だちの作るシャボン玉にも興味をもたせるようにすることで、同じ思いの友だちと協力したり工夫し合ったりして遊びが広がったり高まったりできるようにする。自分のイメージしたシャボン玉を作ることができるように、教師も一緒に活動をしたり、言葉掛けを工夫したりする。また、自分で作ったシャボン玉を見て、自分の言葉で表現する姿に共感し、価値付けを行うことで、遊びへの満足感を感じさせるとともに、周りの意欲を高めたり、気付きを広めたりするようにする。

「つたえあう」活動では、自分のシャボン玉のことを教え合う時間を設定することで、活動へ対する充実感を味わわせるとともに、気付きを共有するようにする。どんな道具を使ってどんなシャボン玉ができたのかや友だちと協力して楽しんだことなどの発言を大切にしたい。

「つなげる」活動では、また、楽しく遊べるように、片付けの活動を設定し、片付けの意義や大切さを味わわせるようにする。「かかわる」活動での遊びの工夫の楽しさや「つたえあう」活動で聞いた友だちの言葉をもとに、「もっとこうしたい。」「家でも楽しみたい。」などといった今後の活動に発展するような思いをもたせるようにする。

過程	時	主な学習活動と教師の手だて・評価
であう・みつける	(分)	1 どんなシャボン玉をつくりたいか話し合う。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなシャボン玉をつくりたいな。 ・たくさんとばしたいな。 ・ずっととんでほしいな。
	2 教師の作るシャボン玉を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストロー以外でも作れるんだな。 ・ぼくも作ってみたいな。 ・先生よりすごいのを作ろぞ。 	
かかわる	28	3 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">どうぐをつくってしゃぼんだまをとばそう。</div>
	4 道具や道具の使い方を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ストロー以外の材料もあるよ。 ・友だちと仲よくつかおう。 ・はさみをもって歩かないよ。 ・渡すときは、刃の方を持つよ。 	
	5 シャボン玉遊びを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きなストローだと大きいシャボン玉ができるみたい。 ・ハンガーでも大きいシャボン玉ができたよ。 ・シャボン玉の液を濃くすれば壊れにくくなるのかな。 	
ったえあう・つなげる	12	6 工夫したことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・シャボン玉ができるところを大きくすると、大きなシャボン玉ができるよ。 ・洗濯のりを混ぜると壊れにくいシャボン玉ができるよ。 ・ストローをたくさん束ねたら、いっぱいシャボン玉が作れたよ。
	7 後片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・道具は、元の場所に片付けよう。 ・手伝ってあげるよ。 ・一緒に遊ぼう。 	
8 活動の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きなシャボン玉ができたよ。 ・学校中をシャボン玉でいっぱいになりたいな。 ・おうちでも大きなシャボン玉を作りたいな。 		

前時に書いた学習カードを読み返し、今日の活動で何をやるのか明確にしておく。



教師の作るシャボン玉を見て、道具を工夫したり、作りたいという思いを高めたりすることへ、つなげるようにする。

遊びが広がるように、さまざまな材料を用意しておくようにするとともに、材料ごとに入れ物や置く場所を分けて活動が取り組みやすいようにする。



友達どうして見せ合ったり、教え合ったりするように言葉掛けをする。

※ 自分なりに使う道具を考え、繰り返し試しながらシャボン玉を作ることを楽しんでいる。

(問いかけ、対話、つぶやきなど)

- 意欲的に活動をしている子どもには、さらに工夫したり、友達にアドバイスをしたりできるよう称賛する。
- 活動に戸惑っている子どもには、友達のやり方を参考にさせたり、個別に言葉掛けをしたりする。

用具は、安全に気を付けて、決められた場所に片付けるように声掛けをする。また、片付けられたかどうか、しっかりと見届けをし、振り返りの場で称賛できるようにする。



工夫や頑張りを称賛し、さらに発展した活動ができるよう、意欲付けを図るようにする。